

青梅市文化財ニュース

第382号

令和元年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

ミゾゴイ

ミゾゴイはコウノトリ目サギ科の野鳥で、全長 49 cmほどの大きさです。頭部は暗い赤褐色、嘴は黒褐色、肩と背中は暗褐色です。喉から腹にかけては淡褐色で、黒色の縞模様があります。4月頃に東南アジアの方から繁殖のために日本に渡ってくる夏鳥です。繁殖は、ほとんどが日本で行います。繁殖が終わり秋になると、また東南アジアへと渡っていきます。琉球諸島でも少数が越冬します。

生息場所は、平地から低山の広葉樹林や暗い針葉樹林と広葉樹林の混合林、またはタケ類などが混ざる混合林にやってきて、林内の沢筋や湿地などで、サワガニなどの甲殻類、ミミズ、カエルなどを捕食します。春から初夏にかけて、「ボーウ、ボーウ」と夕方から夜間にかけて鳴きます。そのため夜行性の鳥と考えられていましたが、日中もエサを捕る行動が見られるため、昼行性であるとも考えられるようになってきました。

繁殖は、ケヤキやエノキなど広葉樹の樹上に枝を組み合わせた巣をつくり、3～4個の卵を産み、約1ヶ月抱卵します。ヒナへのエサ運びは、巢内と巢外合わせて40日間ほどです。

里地里山と呼ばれている所を好んでいますが、森林伐採や宅地開発などで棲家となる緑地が少なくなっているため、環境省のレッドリスト2018では絶滅危惧種Ⅱ類(絶滅の危機が増大している種)とされています。

森の中でひっそりと暮らし夜間に活動的になるその性質から、観察例がとても少ない鳥です。2018年に青梅市内で繁殖した例を紹介します。発見したのは6月13日頃で、知人からの問い合わせでした。「巣の上で首を伸ばした鳥がいるから見てほしい。」という話の様子からミゾゴイではないかと、訪ねて行ったところ、ミゾゴイのヒナと親鳥が巢内にいて、知人と一緒に巣立ちまで定期的に観察することになりました。

民家に近い崖線林で、周辺にはケヤキ、シラカシ、モウソウチク、エノキなどがあり、営巣木は斜面中部の樹高5m、直径13cmほどのエノキで、やや上部に枝を組み合わせた直径60cmほどの粗雑な巣です。エノキの上には、ケヤキの枝が張りだして、上空から見つからないようになっています。知人はビデオを撮り、抱卵からヒナが大きくなるまで記録を残してくれました。それによると、「6月17日親鳥と卵を少なくとも2個は確認。6月19日ヒナ2羽が見えた。6月20日白い羽毛が目立つヒナが4羽いる。6月

21日羽毛がさらに増え、親鳥が2羽でエサを飲み込ませている。ものすごい食欲だ。6月22日ヒナの体が大きくなった。6月23日大きくなったヒナで巣がいっぱいになる。給餌以外で親鳥が巣に入ることがなくなった。」

6月24日は観察に参加できたので、4羽のヒナが確認できました。物音などに警戒すると、首を伸ばして首の縞模様を強調させ、木の幹に擬態^{ぎたい}しています。親鳥も巣内にいて、白い綿羽^{めんう}に包まれたヒナ1羽と親鳥が首を伸ばします。他のヒナは巣内で伏せているようです。6月27日は、4羽のヒナだけが巣にいました。一斉に首を伸ばしますが、疲れると伏せて見えなくなります。7月1日もヒナが4羽います。綿羽が抜けて親鳥と同じ羽毛が出てきました。それぞれがキョロキョロと親を探すようなしぐさをします。この日は、周辺で3羽の成鳥を確認しました。3羽が同じような所で捕食していることから、1羽はヘルパーと思われます。ヘルパーとは、まだ繁殖に入らない若い個体が繁殖している個体に混ざってエサ運びなどを手伝うことを言います。エサは巣の近くで見つけて頻繁^{ひんぱん}に持ち帰ります。7月9日には、ヒナは親鳥とほとんど同じ羽に変わり、大きさも親鳥と同じくらいになっています。頭のとっぺん^{とっぺん}にだけ、少量の綿羽が残っています。まだ巣内に伏せるヒナが1羽もいますが、あとの3羽は枝渡りをして、少し巣から離れて止まっています。巣立ちを迎えるのも間もなくのようです。

7月12日に知人から報告があり、11日の夜に大きな声がしてから巣の周辺から姿が見えなくなったとことです。12日に巣の周辺を確認しましたが、巣は健在で周囲に羽なども見当たりません。これは巣立ちで、4羽とも無事巣から飛び立ったようです。

巣の周辺には、新しいフンが多数あり、卵の殻、綿羽なども少し残っていました。営巣期は、なるべく近くでエサを探して持ってきます。周辺の環境はミミズやカエルなど生き物が豊富な豊かな土壌を必要とします。また、思ったより人家に近い林内で営巣することが多く、そのような環境はすぐ無くなってしまいうことも少なくありません。ミゾゴイは、夜行性だから昼間は観察できないと長く考えられていました。それほど密かに地面で獲物を探し、静かに暮らしています。近年スギの花粉対策などで大規模な伐採や、林内を明るくするために間伐が盛んに行われるようになってきました。ミゾゴイの棲む^す環境は、私たち人間が手を入れたような場所だったりするのです。そんな環境を残しながら、保全をしていっていただけたらと考えます。



6月24日



6月27日



7月9日